

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します



合田 直弘

通算成績6戦6勝で、2着馬につけた着差の平均が12馬身弱というモンスター・フライトラインをはじめ、G1AGヴァンダービルトHなど5つのG1を含む重賞11勝馬ジャッキーズウォリアー、G1ペガサスワールドCなど4つのG1を含む重賞8勝馬ライフィズグッド、G1アレンジャー・キンスなど3つのG1を含む重賞4勝馬ジャッククリストファー、G1ジョッキークラブGCを含む重賞5勝馬で、G1BCクラシックが2着だったオリンピアードなど、北米のダート戦線を牽引した牡馬の多くが22年をもって現役を退き、23年春から種牡馬として供用される。すなわち、次世代のスター誕生が待たれているのが現在の北米ダート戦線なのだが、その有力候補にあげられているフォルテ（牡3歳、父ヴァイオレンス）が、今月のこの「コラム」の主役だ。

20年2月3日にケンタッキー州のサウスゲートファームで産声をあげたのがフォルテだ。母クイーンカロラインは、東海岸のメリーランド州を拠点としたマイケル・マツ調教師の管理下で20戦し、LRインディアナグランドS（芝8F）など6勝をマーク。通算で40万ドル以上の賞金を獲得した活躍馬だった。

その初仔として生まれたフォルテは、当歳秋にキーンランド・ノヴァンバーセールに上場され、8万ドル（当時のレートで約

849万円）でシルヴァーヒル・ファームに購入された後、10ヶ月の時を経て1歳の秋にキーンランド・セブテンバー・セールに上場された。

セブテンバー・セールというのはカタログ記載馬が4千頭を越えるマンモスセールで、血統・馬体を吟味された上でトップクラスと判断された馬がブック1に分類される。この時、フォルテが分類されたのはブック4で、ヒップナンバーも20355という大きな数字が割り当てられていた。そして、フォルテはここで現在の馬主に、11万ドル（当時のレートで約1216万円）で購買されている。1年後にはスター候補ともて離されることになる馬にしては、かなり控えめなお値段だが、状況から察するに、当時のフォルテの評価は、松竹梅で言えば「竹」がせいぜいだったようだ。

東海岸の超名門トッド・プレッチャーハン舍の一員となつた同馬は、5月27日に早くもデビューデ日を迎えた。ベルモントパーカーのメイドン（d5F）を7.4馬身差でぶつちぎつて、見事に初陣を飾った。

ところが、続いて出走したG3サンフォードS（d6F）では勝ち馬に5.4馬身遅れの4着に敗退。オッズ2.45倍の1番人気に支持したファンを、裏切ることになつた。

しかし、緒戦の勝ち方で意を強くしていた陣営は、フォルテの次走にサラトガの

G1ホープフルS（d7F）を選択。スロッピーという泥田のような馬場状態になつた中、前半は6頭立ての5番手を追走した同馬は、前の馬たちがあげる泥しぶきを盛大に浴びることになったが、3コーナーから一気に進出して直線入口で先頭に立つと、そこから後続に3馬身差をつけラストと判断された馬がブック1に分類される。この時、フォルテが分類されたのはブック4で、ヒップナンバーも20355というリーダーズフェューチュリティ（d8.5F）は、距離延長が課題の一戦となつたが、ここも無事に白星で通過して2度目のG1制覇を達成。

2歳最終戦となつたのが、11月4日にキーンランドで行われたG1BCジュヴェナイル（d8.5F）で、こちらも1.1/2馬身差で制したフォルテは、年明けに発表されるアメリカの年度表彰「エクリプス賞」で、最優秀2歳牡馬に選出されるのが確実視されている。

また、11月24日から27日まで全米で発売された「ケンタッキーダービー・フェニックス」では勝ち馬に5.3馬身オルテはオッズ1.62倍で、個別の馬では断然の1番人気に推されている。

23年のケンタッキーダービー戦線を牽引することが期待されるフォルテの名を、日本の競馬ファンの皆様もぜひ覚えておいていただきたい。